



積水化学工業株式会社
高機能プラスチックカンパニー
機能樹脂事業部 機能樹脂営業所

古本茉優さん

ふるもと まゆ

1994年愛知県で生まれ、小4で東京都に転居。中学から中高一貫校に進学。2013年専修大学経営学部に入學。笠原ゼミナールでは国際経営学を学ぶ。2017年卒業後、積水化学工業株式会社に入社。趣味は家族や友達との旅行、コンサートの鑑賞など。

神田キャンパス9号館「学生サポートセンター」にて撮影

「素材、モノづくり、世界を結ぶ アライアンスの職人になりたい」

身の回りの製品のいたるところに使われている化学素材。モノづくりの生命線ともいえる素材を世界に届ける化学メーカーで、自社と顧客を結ぶ橋渡し役を担う古本さん。社会人としての考え方のベースとなったのは、専修大学での4年間だったと語る。

現在、積水化学工業でPVB（ポリビニルブチラール）を取り扱う部署に所属しています。PVBは自動車ガラスの中間膜やスマートフォンの部品、ボールペンのインクなど、私たちの生活の中で幅広い用途で使われています。

入社3年目で、仕事は貿易実務です。日々、営業からの需給オーダーを処理し、 SHIPPING（船での輸出入）に必要な通関手続きに応じています。

地域紛争や自然災害のニュースにもアンテナを張っています。事態への対応が遅れ、在庫を抱えて

しまえば棚卸資産となり、企業にとってはコスト負担となってしまうからです。製品が顧客にタイムリーに届けば在庫リスクは減り、企業に利益をもたらします。その要を担う日々の仕事に、責任感と誇りを感じています。

生田キャンパスでの日々が私を強くした

就職活動を通し自己PRとして、主に二つのことを話しました。一つは中高時代の部活動のこと。そ



↑大学時代、経営学部笠原ゼミナール。後列左から2人目



↑笠原ゼミではタイやベトナムに出向き、現地の日本企業を見学した。右から2人目



↑会社の同期と。右端

してもう一つは、大学時代のゼミナール活動とアルバイト先での経験です。

中高時代の部活動の経験では、当時の苦勞を正直に話しました。中高で女子バスケットボールを6年間やり遂げましたが、一度もレギュラーにはなれませんでした。悔しかったですが、レギュラー選手のメンターとして、ベンチを支えることの大切さを学びました。この時の体験が、「忍耐強く耐えること」と「サポートの大切さ」を教えてくれました。

高校3年の受験の時は、自信もなく漠然と大学に行くものと思っていました。でも、社会人として働く前に企業のことを学びたいと思い経営学部に入學しました。大学では、ゼミナールに取り組み、友達をつくり、そしてアルバイトで社会との接点を見つけないと思いました。

笠原ゼミナールで行ったタイとベトナムでの海外研修は、メーカーを志す契機となりました。日本の企業が、アジア諸国でその国を支える存在として活躍していることに誇りを感じ、モノづくりが世界の人の暮らしを豊かで安心なものにしていることに感動しました。

就職活動では多様なメーカーの門を叩きましたが、最終的には化学メーカーに行き着きました。教授や先輩、仲間たちとの議論の中から出した、自分なりの「社会への貢献の仕方の答え」であったと思います。ゼミの先生と仲間には本当に感謝しています。

そしてもう一つ、学生時代の大きな経験としてアルバイトがあります。ユニクロでのアルバイトは社会との接点となりました。旗艦店の一つ新宿高島屋店で働いていましたが、多国籍のお客様と多国籍の学生アルバイトが交差する現場に日本の将来を感じました。この経験は、グローバルな仕事がしたいと

思う契機にもなりました。

4年生の頃には新人のコーチングも任されるようになり「人に何かを伝えるには言葉が大切」ということを学びました。同時に「目的をシェアしなければ人の心は動かない」ということを知りました。これは今の仕事にも活かされていると思います。

全国のアパートの中から選抜され参加した表彰式では、社長の柳井正氏から直接声をかけていただき、自信につながりました。

仕事と家庭を両立できる女性になりたい

母は私を一生懸命に育ててくれたと思います。メーカーで働いていた母は結婚を機に退職し、専業主婦として頑張ってきました。でも、時代は変わり、今は共働きの時代です。

就職活動のときに、私が企業訪問を通して注目したのは女性社員が笑顔で仕事をしているかということでした。将来に対して仕事と家庭を両立するためのビジョンを、社員の方が持っているかを確かめました。その点、積水化学工業は女性のライフイベントに合わせた働き方を推進していて、ここであれば仕事と家庭の両立を実現できると感じました。

就職活動の面接では、自分の考えの甘さから打ちのめされることもありましたが、そんなときは母に話を聞いてもらいました。毎日、私の話を聞いてくれた母には感謝しかありません。

企業は一つのプラットフォームです。素材＝モノづくりのアライアンスは、グローバルに人の暮らしを支える生命線ともいえます。その考えにたどり着いたのは学生時代の経験があったからです。今の専大生たちにも、学生時代に自分の核となるような考えをしっかりと見つけ出してほしいですね。